地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご近所への買い物、散歩、地域のお祭りや盆踊り、わが町のお花見の名所、幼稚園のお遊戯会を見に行く等自分の住んでいる町を感じながら喜んでいただけるような機会を大切にしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「喜びや楽しみを支援し、一緒に共感できるケア」、「安心できる関係作りと心地の良い環境作り」、またユニットの約束として「させていただいているという意識を持つ」を意識して日々のケアを行い、それに反れた事があるときはミーティングなどで再確認をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や慰問ボランティアさんの訪問時、ご家族の面会時などに私達がしていることや思いが伝わるよう働きかけているつもりである。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日中働いている方が多いようでお会いする回数は少ないが、お会いした時はきちんと挨拶するようにしている。 散歩のときなどにお会いする方と立ち話になったりと親しみが持てるような雰囲気を作るようにしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には賛助会員という形の入会となっている。 そこから地域の行事や活動予定を知り、参加させていただいている。協力病院の医師や看護師、事務長などともよい関係が築けており私達のGHをよく知っていただくPRにもなっていると思う。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の認知症介護のエキスパートとしてお役に立ちたいという思いはあるが、今まで職員の人員確保事体が大きな課題で手一杯であったためその分野の話し合いや取り組みは進んでいない。	○	地域の方が私達のような施設にどの様なことを求めているのか、私達がしなければいけないことなどニーズを探りながら、必要とされることに力を貸していきたいと思う。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での視点などを踏まえ、会議などでそれをケアの向上につなげるよう話をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いだけではマンネリ化してしまうため、手作りおやつを一緒に作っていただいたり、運動会の様子を見ていただいたりした後に会議をしている。 その為利用者様の様子も伝わりやすいと思う。防災関係などでは良いアイディアをいただいたりと助かっている部分がある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の報告や諸手続きを通して情報交換を行ったり、毎月1回介護相談員が来所され第三者の目を通してご利用者、GHの様子などを見ていただきご意見をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や市のケアマネジャーの会などで情報を得ている。 今後、必要となる方もありそうなので、その際は地域包括支援センターに相談しながら支援をしていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止･接遇マナー向上委員会」を設置し、職員が互いに啓発できるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** **契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている**	重要なところは繰り返し説明し、誤解のないようにするとともに理解しやすいよう行っている。		
13	**○運営に関する利用者意見の反映** **利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている**	市町村より介護相談員が来られるのと、ホーム相談窓口、外部申し立て機関、第三者申し立て機関を設置しているが認知症により難しい。が、日常の様子から察知してケアに反映するよう心掛けている。		
14	**○家族等への報告** **事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている**	御面会時には最近の様子をお伝えしたり状態の変化が見られるときには早めに連絡をいれている。 家族会では全体的な報告を行う。金銭管理は毎月の御利用料の請求の際に、レシート、金銭出納帳の写しを提示し報告させていただいている。		
15	**○運営に関する家族等意見の反映** **家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている**	13同様、各窓口を設置している。 また、家族会でもご意見やご要望などを聞き出すようにしている。		
16	**○運営に関する職員意見の反映** **運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている**	スタッフ会議や個人面談を通して意見を聞き、良い意見は反映させていただいている。		
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** **利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている**	どの時間帯に職員が多く必要であるか把握しながら勤務表を作成している。 各ユニットで調整がつかないときは他ユニットからの応援やご利用者の急変など突発的なことは管理者が対応している。		
18	**○職員の異動等による影響への配慮** **運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている**	開設当初から管理者の変更や職員の異動はない。 離職についてはやむ負えない部分があるがその後新しく入職する職員が早く馴染めるような雰囲気作りを心掛けている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○職員を育てる取り組み** **運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている**	法人内では救命講習、応急処置の講習などを設け、法人外の研修は段階に応じた職員に受講していただいている。 日々のケアの中や個人面談では一人一人の性格や資質、レベルに応じてアドバイスをしている。		
20	**○同業者との交流を通じた向上** **運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている**	毎月の事業者連絡会やケアマネ会を通して情報交換や交流を図っている。		
21	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** **運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる**	個人面談などを通して聴く機会を設けたり、元気の見られない職員などには早めに対応するよう心掛けている。		
22	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** **運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている**	一生懸命にやってくれている職員にはねぎらいの言葉を忘れないようにしている。 また、現状で良しとし、自分に甘いタイプの職員には何が足りないかを伝え、改善していく努力を求める。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	**○初期に築く本人との信頼関係** **相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている**	ご本人の言葉から不安なことや今後どのようにしたいかなどが聞けるよう話し方に工夫をしながら聞き出せるようにしている。		
24	**○初期に築く家族との信頼関係** **相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている**	今までのご苦労を労いながら、ご本人がどのような生活をすることを望まれているのかを聞き出し、それをケアに繋げていく。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、GHに入所ありきではなく、ご本人とご家族がより良い方向になるために何が必要かを見極め、在宅サービスも視野に入れた面談を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日中何日か利用していただいて、雰囲気を知っていただいたり、ご入居者、職員ともなじみ関係を作りながら入所としたケースもある。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人、される人という関係ではなく、時には父親、母親、また友人、子供、などその時の状況に応じて使い分け、一緒に楽しく生活するために必要な人、その人がいるとうれしいという感じが、職員にも利用者様にも生まれるよう努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況に沿って、良くなったこと、また悪くなってきたことなどを伝えながら、一緒に知恵をしぼったり、意見交換したりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活史を大事にし、ご家族とご利用者様の橋渡し的な対応を心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご姉妹とお墓参りに行ったり、外食に行ったり、ご主人が入院した時に病院に職員と一緒に見舞いに行ったりご家族とのつながりを大事に考えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中はほとんどの方が食堂で皆と過ごされ、職員や入居者様とすごされる。 しかし、認知症の軽い方が、重い方の言動や行動を許せず、一緒にレクリエーションなどをすると言い合いとなることが度々あり難しさを感じる。 どちらかを悪いとせず、ある程度レベル別に職員がつき、その中で楽しめることを提供するようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その様な例はまだないが、困った時はいつでも相談に乗らせていただく旨伝えている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どういうことが喜ばれるかなどを把握してそれにそうような生活ができるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時や御面会時にご家族から情報を聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態の変化には常に気を配っている。過ごし方などは、日々の申し送りやケアカンファレンス、スタッフ会議などで検討し、ケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	面会時のご家族との会話の中や日々の過ごし方の中で課題を把握してより良い介護に結び付けることができるようケアプランをたてている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	人員確保が困難で管理者や計画作成担当者が現場に入りきりな状態であったため、計画作成が期間内ぎりぎりの状態である。 しかし、重要なことは書面にする前に常にタイムリーに対応している。	○	少しずつ人員確保ができ、計画作成担当者も一人増員できたので、今後はもう少し余裕を持ってケアプランの作成をしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にはご本人の様子、精神状態がよくわかるように記入するよう指導している。管理者は毎日それを読み申し送りや会議で迅速に指示を行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊などご要望に応じて、行っていただいている。外泊等で落ち着かなくなったときなどはいつでも帰ってきていただくよう支援している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの慰問活動で楽しんでいただいたり、消防では応急処置や救命講習などでお世話になっている。 市民向けの教養講座などに参加していただきたいと思っていたが、認知症の程度や集中力の低下などで困難と感じている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	そのような事例はないが、ご家族やご本人が在宅復帰を希望した場合は関連事業者と相談しながら支援をしていくつもりである。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	そのような事例はないが、権利擁護、その他必要時は協働していきます。 同じ建物内に包括支援センターがあるので協働しやすい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHの協力病院は決まっているが、ご家族が今までのかかりつけ医を希望する場合は継続していただく。 しかし、今までそのような事例はない。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の薬を処方されている方がいるので、定期的な受診の際に生活の様子を詳しく説明し、指示やアドバイスをいただいている。 また、ご家族にご本人の状況をドクターより説明していただいたほうが良いと判断した時はご家族と管理者が一緒にドクターより話を聞くよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診医、またそこでの看護師とよい関係が築けており、ご利用者のこともよく知っているし、相談がしやすい。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先にまめに伺い状態の把握に努め、ご家族様と同席で医師の話を伺い、退院後の注意点などを聞き安心して過ごしていただけるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病気により重度化している例はなく、比較的に健康状態は保たれている。しかし、アルツハイマー型認知症の進行がかなりすすんでいる方もいる。入居前にあまりこの病気の事を詳しく医師より聞いていないご家族もおり、今後予測されることなど精神科医とともに聞く場を設けたりし、状態の変化にあらかじめ準備ができるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の体制や職員の現段階での力量などを勘案、またかかりつけ病院での体制などを総合的に判断し、どこまで当GHでできるのかをご家族に意向をうかがいながら検討していく。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前にご家族や入所施設の職員、またケアマネジャーなどと情報交換を行い、ご本人が安心できるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員でその気持ちでケアしていると思うが不適切な言動を確認した時は管理者がその場で指導するようにしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話を大切にし、そこから思いや喜び、楽しみを理解するようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急がせることなく一人一人のペースを大切にしている。 また、その日の気分によってやりたいこと、やりたくないことがあるので、押しつけることなくその方の意思を尊重するようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容はボランティアで安価でしていただいているが、ご家族様と一緒に行きつけの店に行かれることも問題はない。しかし、外出などで多くいわれるのは時間が長くなると落ち着かなくなるとの話があり、難しさも感じる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	やりたくない方もいるので、意思を尊重しながら、出来ることを見守りながら一緒にしていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこの希望は現在ない。 おやつに関してはお年寄りが好まれるような物をなるべく提供するようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表から排泄パターンを読み取り、一人ひとりに応じた声掛けをしている。 安易にパットの枚数を増やしたり、おむつにしたりはしない。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日～2日おきに入浴できるようにしている。 入浴をあまり好まない方には声掛けの工夫をしたり、無理に入れることはしない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れが見られるような時は声掛けし、居室で休んでいただいたり、一人になりたいような気持のときは居室で過ごしていただいたり、ご本人が心地よくいられる場所となるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	認知症や身体状況が重度化しているため、昔得意だった事も忘れていたり、できなかったりもするが、その日のその方の気分にあわせたレクリエーションや散歩、日光浴などをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを意識されている方は1名のみであるが、ご家族と話し合いながら小銭程度を持っていただき、それを持って一緒に買い物に行ったりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日、暖かい日などは外気にふれるようその方の気分に応じて支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	認知症が重度化しているため、大勢い人のいるところでは怖い感じがして落ち着かなくなったり、少しでも風が吹くと寒く感じ帰りたくなったりと変化に対応が難しくなり、GHにいるときが一番安心していられるような感じがする。 であるが、その方が喜びそうなイベントなど一人ひとり状況に応じてお誘いしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご姉妹から手紙が届き、返事の代筆を職員がしたりと交流を保っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るく気軽な、親しみやすい雰囲気を大事にし、近況をお知らせしたり、気軽に来ていただけるよう接している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止･接遇マナー向上委員会」を設置し、職員が互いに啓発できるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間しかせず、外に行こうとされる方は互いのフロアで注意するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その方の身体状況や予想される行動などに応じて、安全を考慮し居室のドアを少し開けるなどさせていただいている。また、転倒などの危険の高い方の近くで夜勤者は仕事をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	トイレ内のトイレットペーパーやペーパータオルを大量に持って行ってしまう方が数人いる。 トイレ内だとどうしても解りずらかったり、プライバシーもあるのでトイレの外にトイレットペーパーを置きそれを使用時に持って行っていただき、職員がきずきやすいようにした。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご入居者ひとり一人、何に注意すべきか、どんな危険性があるか、誤薬については目で見て、声に出して渡すなど事故を起こさぬよう注意している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新しい職員も多く、全員ではないが、救命講習や応急処置方法などを受けている。 また、緊急時対応マニュアル、急変時各応急手当などをファイルにしてすぐ手の届くところに置いている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	少しずつではあるが、自治会を通してご協力いただけるよう働きかけている。	○	人員確保が困難で十分ではなかったが、今後は避難訓練を毎月1回定期的に実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時などに起こりえるリスクも含めて話をしているが、基本的にはそのことで行動を制限するようなことはしない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化については常に敏感に察知し、医療機関と連絡をとったり、ケアの方法を変えてみたりと迅速な対応を心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は一人ひとりのカルテに目的、副作用、用法、用量を記載したものをいれている。 また、体調の変化により薬の処方が変わった時は受診記録ファイルにどういう理由で変わったので様子観察してくださいと指示している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努め、排泄表は常にチェックしている。落ち着きがなかったり、食欲がなかったりしたときに関連性を考える。食後に必ず、トイレで座位を取っていたき、トイレで排泄ができるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じて援助をしながら口腔ケアをしている。 毎週、定期的に訪問歯科が来て、治療や口腔ケアを行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握は毎食後行い、摂取量の低下が見られるときは好みのものを提供したり、むせこみや嚥下困難なときは形状をかえたりと状況に応じて対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルがあり、衛生委員会を設置している。感染症予防の研修に管理者は参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板、食器かごなどは毎日漂白剤にて除菌している。 また、食品の消費期限についてチェックを行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や畑を日光浴しながら、おしゃべりを楽しみながらみられる環境にある。 玄関に施錠はせず、明るい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間は季節ごとに装飾を変え、明るく陽の光が入るようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の上がりかまちで団欒したり、ソファでくつろいでいただいたりしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 **居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている**	ご家族に助言はしているが、入居に対して必要なものを揃え、その雰囲気に徐々に慣れていくという感じである。 また、日中居室で過ごす方も少ないことからあまりそこに問題はみられていない。		
84	○換気・空調の配慮 **気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている**	居間は風が入っただけで嫌がる方も多いので掃除をするようなときにある程度限られてしまうが、天気の良い日は居室窓を開け換気を心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり **建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している**	廊下やトイレ、風呂場には手すりを設置し玄関には椅子を用意し靴を安全に履き替えられるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり **一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している**	その時の状況に応じてまずは話をゆっくり聞きながら何を訴えたいのかを感じ取るようにしている。 また、一人ひとりの認知機能に応じて必要な部分の出助けを行うようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 **建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている**	天気の良い日に、玄関横の縁台で花や畑、通行人を見ながらお茶を飲んだり、おしゃべりをしたりしている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

	項　目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平均要介護度　３．１　常時、車いす使用の方はいませんが、3分の２の方が歩行不安定で介助や見守りを必要とします。　長距離を歩ける方はわずか1名です。　認知症状は軽度の方から重度の方までおり、その差によってなかなかみんなで一緒に同じ事を楽しむ事が難しくなっています。　どうしても性格の強い方、認知症の軽度の方が重度の方の言動、行動に対してその都度指摘してしまい、職員の悩みの種となっております。　その為、現在はある程度レベル別小グループに分かれ、それぞれに職員がつき楽しめる事をしてします。　社交性や外出に対しての欲求、色々な事を楽しみたいという気持ちを持たれている方が多いので、地域の行事に参加したり、公共施設へ散歩、　また御近所へ買い物、外食と外出支援にも力をいれています。　排泄介助の面で実際には失敗していながらも介助の必要がないと思われている方が多いため、自尊心を傷つけないよう、いかに失敗させないかにも気を配っています。